

熊野古道の資源を活用し全国展開

講師を招き、企画を話し合う

田辺市本宮町の観光業関係者



田辺市本宮町の観光業関係者が集まって話し合う

「地域ブランドが大切」

全国商工会連合会などが推し進めている「平成21年度地域資源全国展開プロジェクト採択事業（全国商工会連合会・日本商工会議所・中小企業庁・経済産業省）」のこのプロジェクトの一つ「世界遺産熊野古道の資源を

活用した着地型プランの開発と全国展開」事業の田辺市本宮町関係「商工会全国展開会議」が21日午後、本宮行政局で本宮町商工会（泉庄治会長）が主催して行われた。これは地域の資源を活用して観光客を呼び、地

域を活性化する事業。この日は、本宮町の川湯温泉・湯峰温泉の旅館の女将（おかみ）や館主、ドライフインなどの観光業関係者15人が参加した。今回は商業活性化アドバイザー・地域ブランドアドバイザーの沢崎聡氏をアドバイザーとして迎えた。最近の観光地は観光客の落ち込みの激しいところが多くなったが、田辺市本宮町はあまりその傾向はないという。氏は、富山ふるさと使節や魚津盛気楼（しんきろう）大使を務めている関係で魚津市の状況を引き合いに出し、魚津のカワハギの例を述べた。以前は、破棄されていたものが今では年間億を超え、高級魚として扱われている現状を話し、各地の成功例を紹介。「本宮町としても地域全体が盛り上がるものの開発、繰り返し

食へたくなるもの、地域のものを使って作る地域ブランド化が大切」と語った。この後、ドライフインを経営する会員からは店の売れ筋の商品の紹介、温泉旅館の女将からは山菜を使った料理や「めはり寿司（ずし）」の作成例の説明もあった。さらに、「売れ筋商品を自分のところに囲い込むことなく、皆に公開してローカル消費を盛んにしながら観光料理にしていく」ことなどが話し合われた。沢崎氏は、本宮温泉郷の各旅館が「熊野本宮平安衣装結婚式記念日プラン」を企画することを提言。平安衣装を用意して熊野本宮大社での結婚式、温泉での宿泊、自然な食事、おいしい熊野スイーツ（デザート）などのプランを紹介した。京都府が実践している施策の説明もした。